

「家族画～少年鑑別所・心を描いた1万枚～」を見て

ある少年鑑別所で、入所してきた少年・少女に「家族画」を思うままに描かせて、一枚一枚に込められたメッセージを読み解こうと努める専門官たちの目を通して、病める家族の姿をみつめ、「家族画」を糸口としてカウンセリングを行うドキュメンタリー番組「家族画～少年鑑別所・心を描いた1万枚～」を見た。

少年・少女は、いわゆる家庭崩壊から非行に走ったケースもあれば、親が「うちの子がどうして？」というように世間的には問題のないと思われる家庭で育ったケースもあるよう。

家族画の中には素人目に、病める家庭故か「やはり…」と頷ける絵もあったが、一見して「この絵のどこが？」と首を傾げるものもあった。

解説によれば、一見問題のないと思われる絵であっても、それは少年・少女の内にある想像と憧れの家族画であり、現実とのギャップのメッセージが描かれているとか。

こうしたケースの少年・少女は、親に自分の弱みを言えない、家族の中に心の居場所をなくしたケースのよう。

そう言われれば、鑑別所に入所してきた少年・少女が描く家族画だけに、その絵の心の裏の推測は容易とも思えるが…。

以前に当 HP の『なぜ、その子供は腕のない絵を描いたか』を読んで（「雑学BN」の書籍等読後感関係（Ⅱ）、2005.09.19.：参照）で触れたが、「子どものため」という「大人が常に管理する中での生活パターン」で育つ幼児の絵にも異変が見られることに通じる事象かなとも思った。

さて話は飛ぶが、絵画診断法というものによると、例えば、確か「黒は恐怖心や抑圧」の心景を現すとか。

でも、最近のレストラン、ラーメン屋等は、スタッフのユニホームは清潔をモットーとする白系であったのに、黒系が多くなってきている。

その理由は、黒は「信頼と自信」を現す色でもあるからとか。

穿った手前勝手な解釈をすれば、現代社会では一人一人が先々の夢を描けられない社会的閉塞感、つまり抑圧感を感じており、だからこそ「信頼」感を抱け、憧れである自らの「自信」を感じる「黒が流行っている」とも言えなくもないが、さて？ さて？ ……。

やはり、絵そのものからだけでは心の病を知ることは難しいことであり、あくまで家族画はカウンセリングの糸口であり、カウンセリング等での係わり合い（寄り添い、やりとり等）こそ大事ということかな？